【司会】岡本先生、補足がありましたら簡単にお願いいたします。

【岡本先生】改めて岡本です。今回の研究発表は 3 つの班に分かれて、それぞれが研究してきたことをまとめた形になりました。原稿量が多かったので、早口になったりして、分かりづらいところもあったかと思います。その辺も含めてまたご質問いただければと思います。以上です。

【城東高　新居先生】読書課題について、16 分割にしたものと従来のものと選択制にしたことで、生徒たちの取り組みの様子に大きな違いや良い変化があれば教えていただきたいと思います。

【司会】ありがとうございます。読書課題に関して、 16 分割のフレームとそうでないものについてのご質問だったかと思いますが、岡本先生よろしくお願いいたします。

【岡本先生】ありがとうございます。担当者から説明いただきたいと思います。

【徳科技高　三河先生】正直なところ生徒たちの感想は聞けていません。ただ、どちらか一方を選択して書かせた場合、16 分割の方が簡単そうで良いのではないかと思ったのですが、実際のところは、半々くらいでした。どちらの形式を選んで書くかという判断も生徒自身に任せるということで、その結果、自分が読書した中身をきちんと把握することができれば良いと考えました。16 分割と従来のものとどちらが良かったのかについては生徒に直接コメントを聞いてみたいと思っているところです。

【司会】他にご意見、ご質問はありませんでしょうか。また、お取り組みいただいた岡本先生や徳島科学技術高校の先生方から他校の国語科の先生方へのご質問等もあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【鳴門高　渡邊先生】ありがとうございました。とても参考になりました。まず生徒に身に付けさせたい力がとても明確で、新聞や小論文模試の外部評価の活用というようなことをうまく利用して、生徒の力を伸ばされているのを感じました。2点質問させていただきます。小論文の結果分析をしていたところで、内容の充実や構成の展開に課題があるとありました。徳島科学技術高校は運動がものすごく盛んで、生徒たちは実習や部活動などの多様な経験をされていると思うのですが、小論文の中で、そのような生徒の日常の経験をうまくテーマとつなげることができているのかというところをお聞きしたいです。また、発表の中で先生もおっしゃっていましたが、新聞コラムなど一人一人の生徒の書いたものを添削するこれらの実践は、非常に大きな負担があると思います。それをどのように先生方で協力して分担されているのか、具体的な話が聞けたら嬉しいです。

【司会】ありがとうございます。まず小論文について、日常の生徒たちの活動がそのテーマと関連付け

て書けているのかどうかということと、先生方の負担軽減に関する工夫があれば……というようなご質問だったかと思います。岡本先生、お願いいたします。

【岡本先生】ありがとうございます。まず、日常の経験が小論文のテーマに生かされているかということですが、実際はここに出ている結果の通りで、生徒にとって経験とテーマをつなげるということはなかなか難しいことだと思います。総合型・学校推薦型の入試で求められる小論文や志望理由書などを、必要に迫られて書く際に、国語科教員からの様々なアドバイスを受けながら、自分の経験や自分の伝えたいことを少しずつテーマにつなげることができていく……という実感です。

教員の負担についてですが、特に新聞コラムは各学期中、週に 1 回程度、進学クラスでそれぞれ実施しているため、膨大な数になります。それを5名の教員で担当しているのですが、工業の進学系クラスが 6 クラス、海洋の進学系クラスが3クラスあるので、 教員1人が 最低でも1～2クラスを担当して添削しています。できるだけ1人の教員に負担が集中しないように分担しています。新聞コラムの課題作成等に関しても、学年ごとに担当を学期で分けて、 例えば 3 年生担当の教員は進路指導で忙しくなる 2 学期は避けて1学期に担当するなど工夫し、負担ができるだけ少なくなるように計画しています。

【司会】ありがとうございます。教員の負担に関しては、どこの学校も抱えていらっしゃる課題だとは思いますが、もしこの機会にうちの学校、こんな風にして工夫しているというようなことがあれば教えていただけたら、それぞれの学校でまた参考になると思います。そういうことがありましたら、教えていただけたら各学校で共有ができるような形で負担軽減に繋がればと思いますので、教えていただけたらと思います。他によろしいですか？

【鳴門高　大島先生】発表ありがとうございました。最近の生徒はTikTokや Instagram を見る時間が多くて、偏った情報を得ることが多い中で、新聞のコラムを活用して要約をしたり、意見文を書かせたりという取り組みをされていて、とても参考になりました。本校でも取り入れたいと思いました。週末課題で取り組まれているということですが、評価についてどういう形で取り入れているのかということを教えていただきたいです。提出することによって、主体的に取り組む態度の部分で評価をされているのか、それともワークシートの一部は「知識・技能」とか、一部は「思考力・判断力・表現力」とかっていう風に分けて評価されているのかについて教えてください。

【司会】ありがとうございます。評価についてですけれども岡本先生よろしいでしょうか？

【岡本先生】週末課題を評価に入れるとすれば、提出物として、主体性を見るという観点で評価に入れると思います。本来であれば、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の観点でもそれぞれ評価すればとても面白いと思うのですが、1 週間に 生徒約 60 名分を見ることになるので、現実的になかなか難しいと思います。ただ、実践例を見ていただいてもわかると思うのですが、要約に関しても意見文

を述べるところにおいても、押さえておくべきポイントやこのような視点で書けると良いというアドバイスを一つ一つに書き込んでいます。だから、評価としては主体性を見るという観点で評価するのですが、内容的には「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の全てを鍛えられるように、生徒にとって成長の糧になるようなものになっているかと思います。週末課題であるコラムを「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の観点でも評価することが現実的に可能であるという実践例があればぜひともこの機会に教えていただければと思います。もし教えていただければ本校としても、業務改善の点からしても非常に助かります。生徒のためにしてやりたいことと、してやれることの差があまりにも大きすぎるというのが、「書く力」や「話す力」を身に付けさせる指導を行う中で、大きな課題だと思います。

【司会】私たち教員が常に直面している課題だと思います。やればきりがない、でも時間には限りがある、というところです。先ほども申しましたが、この件に関するご意見はなかったかと思いますので、また各校でのお取り組みで何か成果があったというようなことがありましたら、事務局の方にお知らせいただきましたら、各学校にもお知らせいただけると思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。
　この機会にぜひというようなご質問があれば最後にお受けいたしますが、いかがでしょうか？
それではご助言を、川島高等学校教頭の乾一美先生にお願いしたいと思います。お願いいたします。

【川島高　乾　教頭】失礼いたします。本日、指導助言というお役目を賜っております。吉野川高校の上加世田先生、それから徳島科学技術高校の岡本先生、お二方の取り組みから、本当にたくさんのことを学ばせていただきました。ご多忙の中、本日のために研究を重ねて丁寧な資料作りを進めていただいたことに、改めて感謝いたします。ありがとうございます。私からは科学技術高校の岡本先生のお取り組みを聞かせていただいて、気づいたこと、学びが深まったというふうに私自身が思ったことなどをお話しさせていただけたらと思います。いただいているお時間が 8 分程度ということですので、少し取り止めのない感想のような発言になるかもしれませんが、ご容赦いただけたらと思います。
　岡本先生からは科学技術高校国語科でお取り組みになっておられる 3つの事例をご紹介いただきました。いずれの取り組みも限られた単位時間の中で、学習指導要領の改定の重要なポイントを踏まえた指導はもちろんのこと、アンケートの分析やデータによる生徒の実態把握によって生徒の「書く」ということに対する強み、あるいは弱みの部分を洗い出して、可視化して丁寧なご指導をなさっているというふうに感じました。
　先生が発表の中で触れられておりましたように、様々なテーマ記事を課題とするコラム学習によって、実社会で使われている言葉に触れながら、漢字力、語彙力を向上させる機会であるとか、時事問題や社会課題について知識を増やす機会というものを計画的に創出されています。加えて、志望理由書の作成、小論文に対応する力、進路目標を実現するための準備としてコラムを活用して、要約や意見文の個別添削という指導もされておられました。このことは、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成するという現代の国語の目標や内容、それから必修、選択に関わらず、国語全科目において理解したり、表現したりするために必要な語句を身につけて話し合う、文章の中で使うことを通して五感を磨き、語彙を豊かにするための指導の改善・充実化といったポイントに当てはまるも

のであるというふうに思いました。発表の中で提示をしてくださいましたように、生徒たち自身が自分の課題としても捉えていた「要約する力」については、アンケートの中で、コラム学習を通して、最も多くの生徒が「要約力が身についた」と回答していて、さらには受験においても文章をまとめる力が役に立ったというふうに回答しているデータを示されておりました。生徒が学びの成果を実感できるということは、非常に我々、国語の教員にとっては非常に貴重な体験をさせてあげているというふうに考えましたし、次へのステップやモチベーションにつながる大事なエンジンづくりができているのだというふうにも思いました。

それから、専門分野の知識を増やすという狙いのもと、生徒たちの実態把握のためのアンケートからも企図したねらいを満たしつつ、読書指導の改善・充実にも取り組まれておりました。苦手意識を解消するための思考ツールの活用や「ビブリオトーク」といった、生徒たちが楽しみながら、主体的に学びに向かう姿勢を醸成する仕掛けを柔軟に取り入れておられて、非常に素晴らしいお取り組みだというふうに感じました。このように手厚い指導が行われているという風に感じるのですが、一方で先生方からも意見がありましたように、これらの取り組みは国語科の先生方のボランタリーな精神で支えられているところも大きいのかなというふうに感じるところでもあります。

それから今後についてというところで進路希望の増加、それに付随して増えることが予測をされている総合型入試や学校推薦型入試を希望する生徒の書く力をどのようにつけさせるのか、対応に関する課題にも言及されておられました。このことは徳島科学技術高校だけではなく、川島高校でもそうですけれども、多くの先生方も共通の思いを抱えておられるのではないかというふうに思うところです。私自身の拙い経験が役に立つかどうかわかりませんが、少しだけお話をさせていただくと、以前の勤務校でコラムを使った取り組みをしていたことがあります。

徳島科学技術高校のようにカリキュラムとして体系立てて実施していたものではありませんし、当時は人的にも時間的にも今よりもう少しだけ余裕があったからこそ、実現できたのかもしれませんが、まず学年団にも協力をいただきまして、学年の先生方にも輪番でコラム選びをしていただきました。関わってくださる先生方それぞれの視点でコラムを選んでいただくので、カテゴリーも多様であるし、生徒たちは様々な分野の記事を読むことができていたというふうに感じております。次にチェックに関してですが、こちらも先生方に無理を言ってお願いをした部分もあるのですが、正担任・副担任の先生方に生徒の実態を把握していただくという観点からご協力をいただきました。もちろん国語科の先生方以外の方もいらっしゃいますので、チェック項目はあらかじめお示しをしておきました。そのチェック項目に関しましても、表現・表記、それから言語用紙の使い方のミスについて、あるいは序論、本論、結論の構成に従って段落分けができているかといった表現や構成に関するものをお願いしておりました。内容については、出題された記事によって国語科でチェックをすることもあれば、正・副担任の先生の方でチェックをしていただいたということもありました。このように緩やかな形での取り組みでしたので、カリキュラムとしての取り組みに反映するには改善が必要であることは言うまでもありません。

しかし、課題の添削には多大な時間と労力が必要です。生徒の学びをより良い形でサポートしながら教員の負担を軽減するための方策というのも考えていく必要があるというふうに感じております。

決して新しい手法というわけではありませんが、重要なポイントに絞ったフィードバックや自己添削、

それから複数名によるペア評価、仲間同士で評価をする。それに基づいた振り返りの手法を実施計画の中に取り入れてみるといったこともやってみてはどうかというふうに考えるところです。これらの前提には評価基準を明確に分かりやすく設定しておくことが必要であって、さらに生徒自身にも評価基準を共有しておくことが必要になるのではなかろうかと思っています。もちろん、生徒たちの習熟度に合わせたフォローも必要ですし、定着までには時間を要することも十分に想定されます。さらに先ほど岡本先生が課題点として挙げられておりましたように、評価基準を定めたとしても、評価者によって評価の揺れが生じるのではないかといった懸念も残るところであり、今後も情報共有や研究を重ねていく必要があるのかなというふうにも思います。

評価基準を生徒たちが知り、自分の文章を基準に照らし合わせて振り返りを行ったり、他者からの評価をもとに相手に伝わる文章として書くためにはどういった視点が必要なのか、説得力のある文章とするためには、情報をどのように整理して根拠を提示すれば良いのかということをより意識できるようになったり、気づきを深めることにつながり、長期的な視点では業務の負担軽減につながっていくのではないかというふうにも考えております。

今申し上げた相互評価を取り入れた「書くこと」の指導については、文部科学省のホームページにも中学校国語の事例ではあるのですが、「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」として、国立教育政策研究所の提案事例が紹介されております。また、以前ベネッセの資料の中でも取り上げられていたので、ご存知の先生方もたくさんいらっしゃるかと思うのですが、評価基準も教師間だけではなくて、生徒にも共有をして、指導と学習の改善を図る取り組みをしている千葉県立千葉北高校の取り組みなども参考になるのではないかなというふうに思います。

現行の学習指導要領、教科国語には 3 つの目標が設定されております。1「生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特性を理解して適切に使うことができるようにする。」、2「生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力、想像力を伸ばす。」、3「言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」という風になります。特に第 2 項目の「伝え合う力」というのは、互いの立場や考え方を尊重して、言語を通して的確に理解したり、効果的に表現したりして、円滑に相互伝達・相互理解を進めていくための力のことであり、この力が社会全体のあらゆる場面で発揮できる、そういう力を生徒たちにつけさせていくということが、私たち教員の使命であるというふうに思っております。

今回ご発表いただいた「書く」という取り組みを通して、「伝え合う力」を育んでいくには教材準備、指導方法、評価の仕組みまで多くの時間と労力を要しますが、このような研修の機会を通して、より良い指導方法、評価の在り方を追求していければというふうに思います。本日ご発表いただきました 2 校の取組には、私たち国語科教員に多くの学びやご示唆を与えてくださいました。ご発表、本当にありがとうございました。

【司会】上加世田先生、ようこそ徳島にいらしてくださいました。一徳島の国語科教員といたしまして、先生をお迎えできたこと、本当に頼もしく、心からうれしく存じます。ありがとうございます。

そして、上加世田先生、岡本先生、日々のお忙しい取組の中、発表をまとめていただきまして、大変お世話になりました。ありがとうございました。それでは以上で研究協議を終わります。皆様、本当にご協力ありがとうございました。